

第2期 北海道創生総合戦略推進状況（令和2年度～令和5年度）

数値目標・KPI

数値目標 8本

KPI 225本

数値目標・KPI
進捗状況

- ①:現時点で目標を達成している(進捗率100%以上)
- ②:現時点で進捗率が90%以上100%未満
- ③:現時点で進捗率が80%以上90%未満
- ④:現時点で進捗率が80%未満
- ⑤:現時点で算定不可

第2期 北海道創生総合戦略【数値目標・KPI】の進捗状況（R2～R5）

1 数値目標（8本）の進捗状況

- ①: 現時点で目標を達成している(進捗率100%以上)
- ②: 現時点で進捗率が90%以上100%未満
- ③: 現時点で進捗率が80%以上90%未満
- ④: 現時点で進捗率が80%未満
- ⑤: 現時点で算定不可

	① 【100%以上】	② 【90%以上100%未満】	③ 【80%以上90%未満】	④ 【80%未満】	⑤ 【現時点で算定不可】	評価
数値目標 進捗率	3 (37.5%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)	-	1 (12.5%)	全体としては「現時点で目標を達成している」、「現時点で進捗率90%以上100%未満」の割合が6割以上となっているが、「現時点で80%以上90%未満」となっている数値目標もあることから、引き続き目標達成に向けて取り組む必要がある。

数値目標	基準値	目標値	実績値	推移	進捗	要因分析
合計特殊出生率	1.27 (H30)	全国水準 (R6)	道 1.12 全国 1.26 (R4)		③ (88.9%)	合計特殊出生率の低下には、仕事と子育ての両立や家事・育児への負担感、子育てや教育に要する費用負担など、様々な背景や要因が複雑に絡み合っているほか、新型コロナウイルス感染症によって、経済的・精神的不安が結婚や妊娠・出産などの面に少なからず影響を及ぼしていると考えられる。
就業率	56.7% (R1)	各年において前年よりも上昇 (R2-R6)	56.4% (R4)		① (100.5%)	雇用の受け皿づくりの取組などにより上昇していた女性の就業率が新型コロナウイルス感染症による影響を受けて一度落ち込んだものの、直近数値はその改善が見られるが、本道の就業率は全国平均よりも低い状況が続いている。
「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」と考える人の割合	75.4% (R1)	増加 (R6)	72.6% (R5)		② (96.2%)	ほぼ横ばいが続いているが、目標達成には至っていないところ。当該目標の達成に向けては、地域において必要な住民サービス機能の維持・確保、そこに住み続けたいと思える環境づくりに向けた各般の施策に粘り強く取り組む必要がある。

数値目標	基準値	目標値	実績値	推移	進捗	要因分析																																																							
道産食品輸出額	1,014億円 (H29)	1,500億円 以上 (R6)	1,298億円 (R3)	<p>(億円) 道外港推計値 (H28から公表) 道内港輸出額合計</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>道内港輸出額合計</th><td>773</td><td>702</td><td>674</td><td>774</td><td>664</td><td>578</td><td>771</td><td>989</td><td></td><td></td></tr> <tr><th>道外港推計値</th><td></td><td>333</td><td>340</td><td>408</td><td>379</td><td>349</td><td>527</td><td>613</td><td></td><td></td></tr> <tr><th>見込額</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1,602</td><td></td><td></td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1,500</td></tr> </table>	年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	道内港輸出額合計	773	702	674	774	664	578	771	989			道外港推計値		333	340	408	379	349	527	613			見込額								1,602			目標値										1,500	③ (86.5%)	コロナ禍の影響により、主要輸出先である中国への輸出額が減少したこと等の影響が続いていたが、経済活動の再開による外食需要の回復や物産展等の開催、小売店での販売増等により、直近令和3年の輸出額は前年から大きく増加した。令和4年の見込額では目標値を超える見通しであるが、現在、中国が日本産水産物の輸入を全面停止していることから、令和5年以降は注視する必要がある。
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																																																			
道内港輸出額合計	773	702	674	774	664	578	771	989																																																					
道外港推計値		333	340	408	379	349	527	613																																																					
見込額								1,602																																																					
目標値										1,500																																																			
外国人観光客	312万人 (H30)	— <small>※コロナの影響により設定が困難であることから、設定可能となり次第設定</small>	69万人 (R4)	<p>(万人)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>外国人観光客</th><td>208</td><td>230</td><td>279</td><td>312</td><td>244</td><td></td><td></td><td>69</td><td></td><td></td></tr> </table>	年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	外国人観光客	208	230	279	312	244			69			⑤ (—)	コロナ禍による入国制限の影響により、それまで増加していた外国人観光客数の算出が困難となっていた。制限緩和以降は旅行需要の回復が見られることから、国内外に対するプロモーションを戦略的に展開し、本道の観光需要の回復に取り組んでいるところ。																																	
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																																																			
外国人観光客	208	230	279	312	244			69																																																					
道民所得	2,710千円 (H28)	10%上昇 (R6)	2,682千円 (R2)	<p>(千円)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>道民所得</th><td>2,719</td><td>2,710</td><td>2,790</td><td>2,802</td><td>2,851</td><td>2,682</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>※基礎資料の改定などに合わせて、毎年、過去に遡って改定をしているため、基準値の数値も設定時と異なっている</p>	年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	道民所得	2,719	2,710	2,790	2,802	2,851	2,682					② (90.0%)	コロナ禍における経済活動の制限や消費の落ち込み、雇用、所得環境の悪化の影響を受け直近令和2年の道民所得は減少していると考えられる。																																	
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6																																																			
道民所得	2,719	2,710	2,790	2,802	2,851	2,682																																																							
本道からの転出と本道への転入の均	▲3,715人 (H30)	0人 (R5)	4,021人 (R4)	<p>(年)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr> <tr><th>均</th><td>6,334</td><td>3,724</td><td>2,890</td><td>3,715</td><td>2,331</td><td>3,600</td><td>4,819</td><td>4,021</td><td>0</td></tr> </table>	年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	均	6,334	3,724	2,890	3,715	2,331	3,600	4,819	4,021	0	① (208.2%)	令和4年は、コロナ禍の入国制限が緩和されことにより外国人が大幅に増加し、日本人についてもコロナ前の令和元年以前に比べれば減少幅は抑制されていることから、総計では4,021人の転入超過となったところ。なお、令和4年の動きは一時的なものであることも考えられることから、引き続き目標達成に向けて取り組んでいく。																																			
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																																																				
均	6,334	3,724	2,890	3,715	2,331	3,600	4,819	4,021	0																																																				
広域連携前進プランに基づく広域連携取組数	— (新規)	50件 (R6)	62件 (R4)	<p>(地域数)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr> <tr><th>取組数</th><td>43</td><td>45</td><td>62</td><td></td><td>50</td></tr> </table>	年度	R2	R3	R4	R5	R6	取組数	43	45	62		50	① (124.0%)	地域において、広域連携前進プランに掲載した取組が着実に推進されており、令和4年度に目標値を達成したところ。なお、取組数はプランの実施主体である地域の実績を表す指標であり、道は取組を促進する形で関与。																																											
年度	R2	R3	R4	R5	R6																																																								
取組数	43	45	62		50																																																								

第2期 北海道創生総合戦略【数値目標・KPI】の進捗状況（R2～R5）

2 基本戦略・KPI（225本^{※1}）の進捗状況

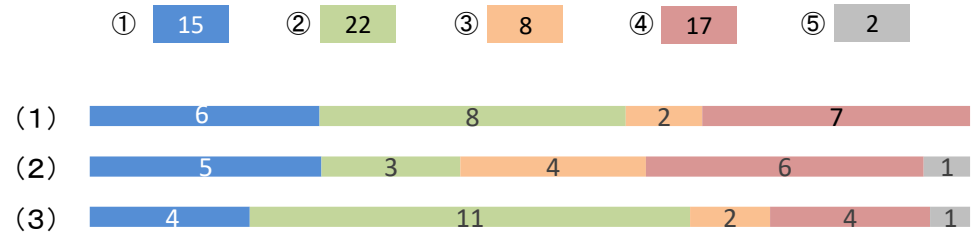
- ①:現時点で目標を達成している(進捗率100%以上) ④:現時点で進捗率が80%未満
 ②:現時点で進捗率が90%以上100%未満 ⑤:現時点で算定不可
 ③:現時点で進捗率が80%以上90%未満

KPI進捗率	① 【100%以上】	② 【90%以上100%未満】	③ 【80%以上90%未満】	④ 【80%未満】	⑤ 【現時点で算定不可】	評価
1 一人ひとりの希望がかない、誰もが活躍できる社会	15 (23.4%)	22 (34.4%)	8 (12.5%)	17 (26.6%)	2 (3.1%)	全体としては「現時点で目標を達成している」、「現時点で進捗率90%以上100%未満」の割合がほぼ半数となっている一方で、「現時点で80%未満」が約3割となっており、引き続き目標達成に向けて取り組む必要のある大項目も見られるところ。
2 人口減少下においても、幸せに暮らし続けることのできる社会	19 (41.3%)	10 (21.7%)	6 (13.0%)	10 (21.7%)	1 (2.2%)	
3 北海道の優位性・独自性を活かして経済・産業が活性化し、いきいきと働ける社会	15 (18.7%)	15 (18.7%)	13 (16.3%)	28 (35.0%)	9 (11.3%)	
4 北海道に住みたくなる、戻りたくなる魅力にあふれた社会	7 (25.0%)	5 (17.9%)	7 (25.0%)	9 (32.1%)	-	
5 地域創生を支える多様な連携	3 (42.9%)	1 (14.3%)	-	3 (42.9%)	-	
計	59 (26.2%)	53 (23.6%)	34 (15.1%)	67 (29.8%)	12 (5.3%)	※R6年度までの戦略推進期間における現時点の進捗状況

※1異なる施策に設定されている同一のKPIについてもそれぞれ個別にカウント

1 一人ひとりの希望がかない、誰もが活躍できる社会

- (1) 安心して生み育てられる環境の整備
- (2) 未来を担う子どもたちの成長を支える教育環境の充実
- (3) 若者、女性、高齢者、障がい者など多様な人材の活躍



評価・分析

全体としては、「現時点で目標を達成している」、「現時点で進捗率が90%以上100%未満」の割合が高いが、基本戦略の次の項目で「現時点で80%未満」となっているKPIが散見される。

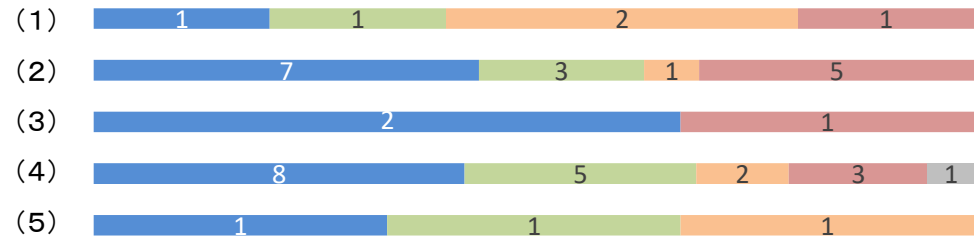
- (1) 安心して産み育てられる環境の整備 ■結婚を望む方への支援や社会気運の醸成、■子育てなどを地域で支え合う仕組みづくり
- (2) 未来を担う子どもたちの成長を支える教育環境の充実 ■地域の将来を支える人材育成のための高校の魅力化

第2期 北海道創生総合戦略【数値目標・KPI】の進捗状況（R2～R5）

2 人口減少下においても、幸せに暮らし続けることのできる社会

- (1) 将来を見据えたまちづくり
- (2) 健やかに暮らせる医療・福祉の充実
- (3) 地域を支える持続的な交通ネットワークの構築
- (4) 安全・安心な北海道づくり
- (5) 地域の可能性を広げるデジタル化に向けた環境の整備

① 19 ② 10 ③ 6 ④ 10 ⑤ 1



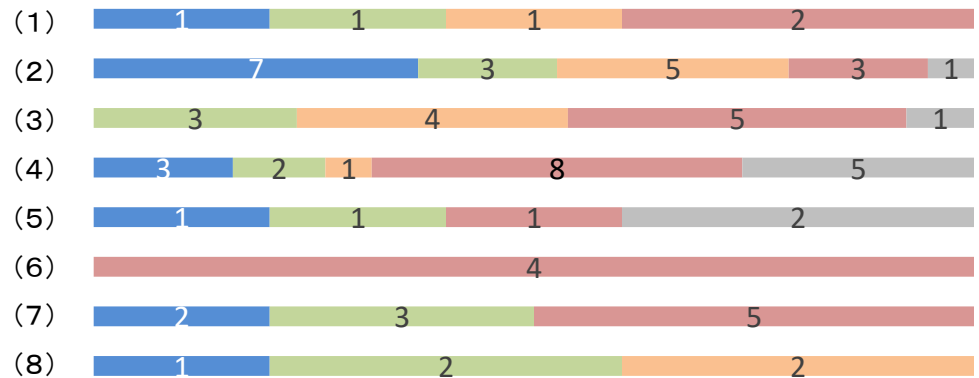
評価・分析

全体としては、「現時点で目標を達成している」、「現時点で進捗率が90%以上100%未満」の割合が高いが、基本戦略の次の項目で「現時点で80%未満」が散見される。
 (2) 健やかに暮らせる医療・福祉の充実 ■ 介護人材の確保・定着と高齢者や障がいのある方々を支える仕組みづくり
 (4) 安全・安心な北海道づくり ■ 防災体制の構築と防災教育の推進

3 北海道の優位性・独自性を活かして経済・産業が活性化し、いきいきと働ける社会

- (1) 魅力ある食の国内外への展開
- (2) 農林水産業の持続的成長
- (3) 「観光立国北海道」の再構築
- (4) ものづくり産業をはじめ北海道の発展をリードする産業の振興
- (5) 地域経済を支える中小・小規模企業の振興
- (6) 道外・海外からの投資促進
- (7) 産業をけん引する人づくり
- (8) 働き方改革の推進

① 15 ② 15 ③ 13 ④ 28 ⑤ 9



評価・分析

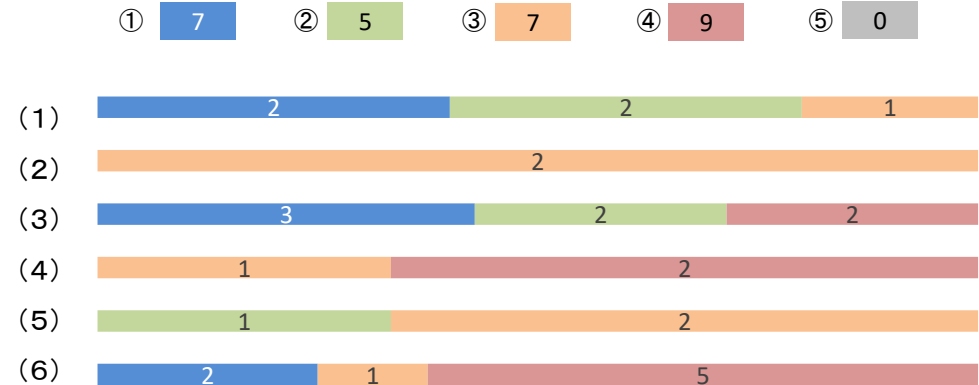
新型コロナウイルス感染症流行の長期化により、観光や海外との商談など大きな影響を受けたことから、基本戦略の次の項目では「現時点で80%未満」の割合が高くなっている。
 (3) 「観光立国北海道」の再構築 ■ 旅行者比率のリバランス
 (4) ものづくり産業をはじめ北海道の発展をリードする産業の振興 ■ 北海道の魅力や強みを活かした海外展開
 (6) 道外・海外からの投資促進 ■ 海外からの投資促進 ■ 本道の資源や首都圏等との同時被災リスクの低さ、バックアップ機能などの立地優位性を活かした企業誘致の推進、■ 地域と連携した企業誘致活動等の展開

一方で、(2) 農林水産業の持続的成長の項目では、農業産出額や沿岸漁業生産量に占める栽培漁業生産量の割合といったKPIが目標値を超えていることから、「現時点で目標を達成している」の割合が高くなっている。

第2期 北海道創生総合戦略【数値目標・KPI】の進捗状況（R2～R5）

4 北海道に住みたくなる、戻りたくなる魅力にあふれた社会

- (1) 移住・定住の促進
- (2) 外国人材の受入拡大と共生
- (3) 関係人口の創出・拡大
- (4) 航空ネットワークや北海道新幹線等を活用した新たな人の流れの創出
- (5) スポーツによる地域の振興
- (6) 北海道独自の歴史や文化の発信



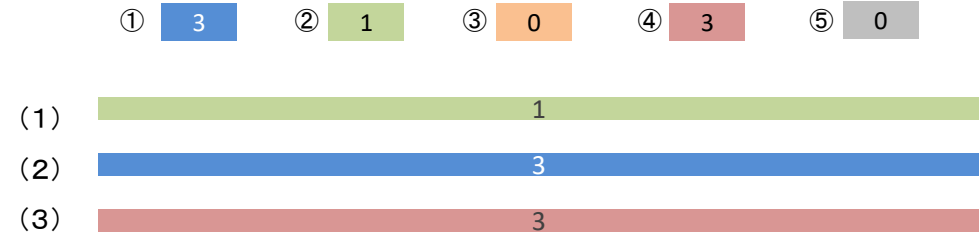
評価・分析

全体としては、「現時点で目標を達成している」、「現時点で進捗率が90%以上100%未満」の割合が高いが、コロナ禍の水際対策や行動制限の影響により次の項目では「現時点で進捗率は80%未満」の割合が高くなっている。

- (4) 航空ネットワークや北海道新幹線等を活用した新たな人の流れの創出 ■航空ネットワークの充実・強化
- (6) 北海道独自の歴史や文化の発信 ■歴史や文化の発信により地域の魅力向上、■地域文化の振興や魅力発信

5 地域創生を支える多様な連携

- (1) 自治体間の広域的な連携の促進
- (2) 多様な主体との連携体制の構築
- (3) 人口減少対策に関する札幌市との連携強化



評価・分析

多様な主体との連携体制の構築については全てのKPIが「現時点で目標を達成している」となっている一方、コロナ禍の影響により、イベントの中止や縮小などの制限があったことから、札幌市との連携や道内版関係人口の創出に係る次の項目では全てのKPIが「現時点で進捗率は80%未満」となっている。

- (3) 人口減少対策に関する札幌市との連携強化 ■札幌市との連携による人口減少対策共同プログラムの更なる推進、■道内版関係人口の創出・拡大